

## 2024年度 事業計画

施設名 グループホームきぬた

### 1 利用計画数

事業種別 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 利用者数 5人

#### (1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	5人						

#### (2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4人
計		5人	0人	0人	0人	5人

#### (3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	1人
20代	0人	50代	2人
30代	0人	60代以上	2人
計		5人	

男性	5人
女性	0人
計	5人

※平均年齢：54.3歳（4月1日現在）

## 2 事業実施計画

### (1) 活動・支援の内容

#### 概要

- グループホームは単なる住居スペースではなく入居者一人ひとりの「わが家」であり、主体はあくまで入居者であって、支援の原則は、結論を急がず、時間をかけて、情報提供の工夫や経験の積み重ねをしながら、その人らしい人生を選び取っていくプロセスを大切にする。
- 還暦を過ぎる入居者もあるなかで、一人ひとりのニーズを確認し、それぞれのライフステージに沿った支援をチームで考え実践する。また、入居者自身の意見や心配・希望を常に尊重した意思決定支援を心掛ける。
- 入居者の意見や心配・希望を軸に、家族、ヘルパー事業所、通所先や医療機関、地域との連携を積極的に行う。
- 研修などを通じて専門的な知識と技術を常にアップデートし、質の高い支援を提供する。倫理観に基づいた対応を心掛け、入居者の人権と尊厳を尊重した運営を行う。

### (2) 地域交流

- グループホームの活動や入居者の生活を知ってもらうことで、地域住民は障害理解の促進と、法人理念でもある共生社会実現に向けた意識を高める「小さな種まき」として、積極的に交流を行う。
- 「きぬたドーナツ通信」の発行やホームページなどによるグループホームきぬたからの情報発信を行う。
- 地域の交流イベントとして定着しつつある「ぐるぐるキヌタ」を今年度も定期的で開催し、地域住民とのつながりの場を設けていく。
- 砧町自治会の活動を通じて、入居者が地域の中で役割を持ち、認知される取り組みを進める。

### (3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 入居者自身が年齢を重ね、新しいライフステージが見え始めているなかで、本人の意思を最大限に尊重しつつ、家族や関係者も含めて安心した生活を継続していけるように、関係者と情報共有および連携しながら支援していく。
- ・ 日々の生活に関わるヘルパーとのコミュニケーションを円滑にするために、入居者の状況の情報共有や連携を強めていく。
- ・ 国や区などの動向を注視し、区内外のグループホームとの交流・情報共有・連携・協力を深めていく。
- ・ その他、入居者にかかわる多くの機関との報告、連絡、相談、そして記録を確実に行う。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 地域とのつながりのなかで多様な価値観に触れ、入居者の視野を広げていけるように、ボランティアを積極的に受け入れていく。
- ・ 新たな交流や刺激を得ることで生活の質向上を目指し、入居者が孤立感を抱かないように地域の力を活用していく。

### (5) 危機管理

- ・ 災害などの非常時に対する事業継続計画に沿った支援体制の確保や情報伝達の手順を職員間で再確認するとともに、備蓄物品の点検や自衛消防訓練の実施などを行うなかで安全管理や非常時の対応について意識の定着を図る。
- ・ 感染症対策については、感染症マニュアルに基づいた対応を基本としながらも、嘱託医と相談しながら、世情に応じて弾力的に対策を講じていく。

### (6) 職員研修の実施

- ・ 入居者の意思決定を的確にサポートできるように、スタッフミーティングなどを通じて情報を共有しながら実践を重ねていく。
- ・ 国際福祉機器展や「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」の研修等に参加しながら、より広い視点に立ったライフサポートを行えるようにする。
- ・ 高齢者サービスとの連携を視野に入れながら、入居者の健康や生活費（金銭管理）、家族のことなど、具体的な課題について深めていく。

## 3 重点目標と取り組み

### ① 本人主体の根幹となる意思決定支援の充実

自身の意思に基づく選択と行動が行えるように、入居者同士やヘルパーが話し合う機会を積極的に設け、その場での意思を最大限に尊重できるような支援を行う。また、入居者が意思決定を行うにあたって、十分な情報提供を心掛けるとともに、日々変化する入居者の嗜好など情報交換をこれまで以上に意識して増やしていく。

### ② 高齢者サービスとの併用を見据えた体制の検討

「65歳の壁」が目の前に迫ってくるなかで、高齢者サービスの利用に向けて障害者サービス事業者や行政との情報交換を行いながら、入居者が「安心できる暮らしの確保」を目指して支援者と一緒に準備を進める。

### ③ 地域の中で役割を持って暮らし、より広い人たちと繋がる

近隣コミュニティと共同開催の「ぐるぐるキヌタ」や地域のイベントに参加し、地域社会とのつながりをさらに発展させる。また、引き続き砧町自治会活動への協力（防災訓練や防犯パトロールなど）を行い、入居者が地域の中で役割を持って暮らし、地域に認知される取り組みを進める。